

第2章 食品製造業の生産動向

利用者のために

食品製造業 総合

- 1 畜産食料品
- 2 水産食料品
- 3 農産食料品
- 4 製穀粉・同加工品
- 5 食用油・同加工品
- 6 砂糖
- 7 調味料
- 8 飲料
- 9 菓子
- 10 調理食品
- 11 酒類

利用者のために

1 食品製造業の生産、出荷、在庫調査の対象

(1) 調査の対象

食品製造業の生産、出荷、在庫調査は、標本調査及び既存統計資料の収集から構成されている。標本調査は、食品需給研究センターがアンケート等の調査により実施したものである。既存統計資料は、農林水産省や関係団体等で実施された調査統計資料を収集し、活用したものである。

調査対象部門と品目は下表のとおりである。

	本調査の対象品目 (標本調査)	既存統計資料の収集品目 (農林水産省、業界団体、国税庁等)
1 畜産食料品	はっ酵乳・乳酸菌飲料 (非乳業)	食肉加工品、牛乳・乳製品、 食肉缶・びん詰
2 水産食料品	水産練製品	水産缶・びん詰
3 農産食料品	野菜・果実漬物 乾燥野菜	農産缶・びん詰、トマト加工 品
4 製穀粉・同加工品	製粉・穀粉、パン類、めん 類、マカロニ類	プレミックス、パン粉、小 麦でん粉
5 食用油・同加工品		植物油脂・加工油脂
6 砂糖		精製糖
7 調味料	味噌	しょうゆ等、マヨネーズ、 ドレッシング類
8 飲料	コーヒー、紅茶、緑茶、ウ ーロン茶、麦茶、 その他の茶系飲料	炭酸飲料、果実飲料、トマ ト飲料
9 菓子	ビスケット、米菓	
10 調理食品	加工米飯	調理缶・びん詰、レトルト食 品、包装もち
11 酒類		清酒、合成清酒、みりん、 焼酎、ビール 果実酒、リキュール、雑酒
12 その他の食品		植物油粕

(2) 標本調査の概要

調査対象	調査対象企業数 597 社
調査時期	平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月
調査方法	郵送・FAX・メール・電話による聞き取り
回答企業数	306 社 (回答率約 51.2%)

2 食品製造業の生産指数、出荷指数、在庫指数の作成基準

(1) 食品製造業生産指数

食品製造業生産指数のウェイトについては、平成 22 年工業統計表の食料品製造業の出荷額を基準として作成している。

ウェイトは、各部門別、業種別、品目別のウェイトを算出するが、調査資料のない品目のウェイトは、原則として、調査品目にふくらしを行い、部門及び全体の推計を行う（ふくらしウェイト方式）。

指数算出時点においてデータがすべて揃わない場合は、前年と同水準であるとする仮定のもと、該当する欠損値に前年の数値を用いて指数を算出している。

(2) 食品製造業出荷指数

食品製造業出荷指数のウェイトについては、平成 22 年工業統計表の採用品目及び出荷額を基準に作成している。

(3) 食品製造業在庫指数

食品製造業在庫指数のウェイトについては、平成 22 年工業統計表の採用品目及び出荷額を基準に作成している。

3 指数の計算方法

指数の計算方法は、次のとおり。

(1) 指数算式

指数計算は対象品目別に基準数量で比較月の生産量を除し、品目指数を計算し、次にこれらの品目指数を業種別、部門別、さらに総合につき品目ウェイトで加重平均する。

基準数量と品目ウェイトはあらかじめ算定し、固定しておくので、変化するのは月々の生産量のみである（ラスパイレス算式）。この指数算式は次のごとくである。

$$Q_t = \frac{\sum_{i=1}^n \frac{q_{ti}}{q_{0i}} w_{0i}}{\sum_{i=1}^n w_{0i}} \times 100.0$$

q : 生産量
 w : 生産額ウェイト
 i : 採用品目を示す添字
 0 : 基準時を示す添字
 t : 比較時を示す添字

生産指数の基準年は平成 22 年であり、基準数量は対象品目ごとの 22 年月平均生産数量である。指数値は 22 年月平均の比例数である。出荷指数と在庫指数についても同様の指数算式で行う。

(2) 指数改定

指数は、基準時から遠ざかるに従い新製品の登場、製品の品質変化、相対価格の変化等によって採用品目の代表性、ウェイト構成の妥当性が不安定になる。このため5年毎に基準時を移行し、改めて選定された採用品目と再計算されたウェイトによる改定基準を作成する必要がある。

(3) 用語の解説

① 暫定値：各総合指数を推計する際、現在の使用データが速報値であり、今後確定値に変更されるデータについては、暫定値としている。

② 寄与度：他の内訳が変化しないとした場合に特定の内訳の変化が全体をどの程度の割合で変化させたかを表している。

$$\text{対前年増減寄与度} = \frac{\text{各部門指数（当年指数－前年指数）} \times \text{ウェイト}}{\text{（総合指数（前年指数）} \times \text{ウェイト）} \times 100.0}$$

③本報告書では上昇、低下、増加、減少の表現区分は次のようにしている。

前年並み	：	±1%未満
わずかに	：	±1～3%未満
やや	：	±3～6%未満
かなりの程度	：	±6～11%未満
かなり大きく	：	±11～16%未満
大幅に	：	±16%以上

食品製造業 総合

(1) 生産指数

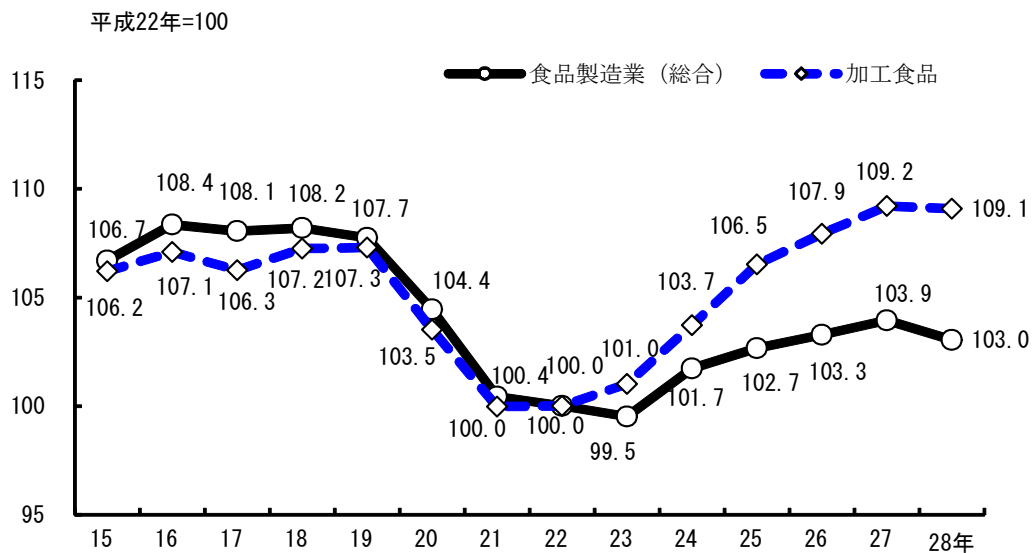
平成28年の食品製造業（総合）の生産指数は103.0で、対前年比▲0.9%と前年並み

平成28年の食品製造業（総合）の生産指数（平成22年=100、暫定値）は103.0で、対前年比▲0.9%と前年並みとなった。うち、飲料、酒類を除いた加工食品の生産指数（平成22年=100、暫定値）は109.1で、対前年比▲0.1%と前年並みとなった。

食品製造業（総合）の生産指数は、平成20年の世界的な経済不況、平成23年の東日本大震災後、上昇で推移し回復していたが、平成26年以降は横這いで推移している。平成28年は畜産食料品、飲料が対前年比でプラスに寄与している。一方、農産食料品、調理食品、酒類は対前年比でマイナスに寄与している。

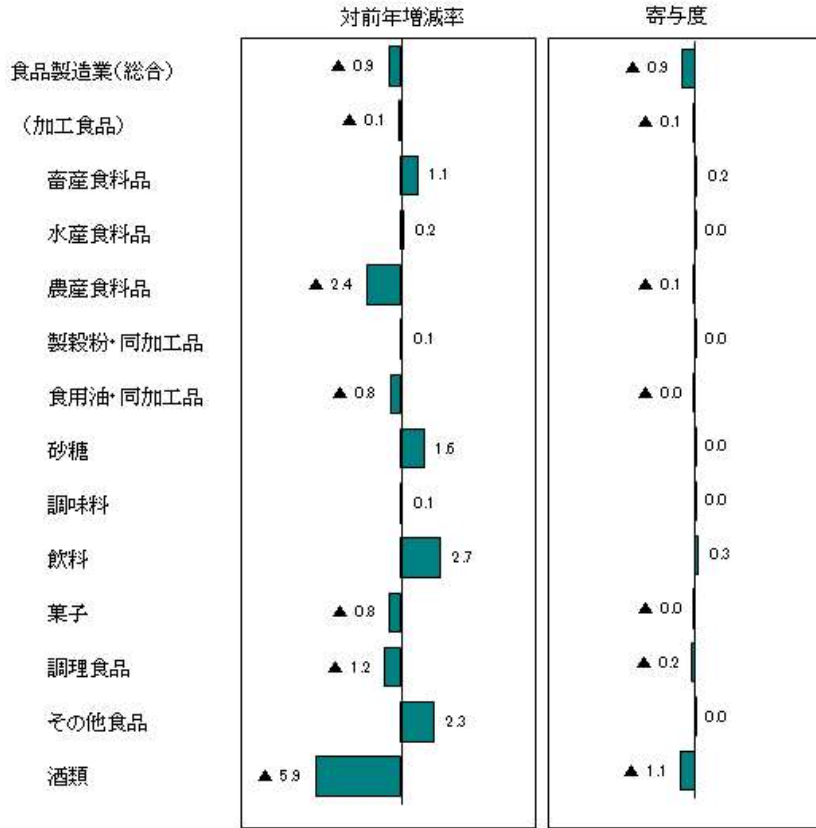
分野別にみると、畜産食料品、砂糖、飲料及びその他食品が対前年比でわずかに上昇した。一方、酒類が対前年比でやや低下し、農産食料品及び調理食品がわずかに低下した。また、水産食料品、製穀粉・同加工品、食用油・同加工品、調味料及び菓子は前年並みとなった。

図2-1 食品製造業生産指数の推移



注：加工食品は、食品製造業（総合）から飲料、酒類を除いたもの。

図2-2 食品製造業の生産指数の対前年増減率、寄与度



注：(加工食品)は、食品製造業(総合)から飲料、酒類を除いたもの。

表 2-1 食品製造業の生産指数の推移

	ウェイト (22年)	指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度
		22年	26年	27年	28年	22年	26年	27年	28年	28/27年
食品製造業(総合)	10,000.0	100.0	103.3	103.9	103.0	▲ 0.4	0.6	0.6	▲ 0.9	▲ 0.9
(加工食品)	6,755.5	100.0	107.9	109.2	109.1	0.0	1.3	1.2	▲ 0.1	▲ 0.1
畜産食料品	1,581.5	100.0	102.9	102.9	104.1	▲ 0.5	▲ 0.6	▲ 0.0	1.1	0.2
水産食料品	321.0	100.0	96.8	98.0	98.2	3.4	2.3	1.2	0.2	0.0
農産食料品	451.3	100.0	84.5	85.2	83.1	▲ 1.4	▲ 1.6	0.8	▲ 2.4	▲ 0.1
製穀粉・同加工品	1,577.6	100.0	105.5	107.1	107.2	1.0	1.6	1.6	0.1	0.0
食用油・同加工品	360.2	100.0	113.1	113.8	112.9	▲ 4.6	1.4	0.6	▲ 0.8	▲ 0.0
砂糖	19.5	100.0	96.4	93.0	94.4	1.5	▲ 1.4	▲ 3.6	1.6	0.0
調味料	865.0	100.0	103.0	102.7	102.8	▲ 1.3	0.0	▲ 0.3	0.1	0.0
飲料	1,214.6	100.0	95.1	93.8	96.4	▲ 3.7	▲ 2.1	▲ 1.4	2.7	0.3
菓子	490.4	100.0	99.4	103.5	102.6	0.7	1.9	4.1	▲ 0.8	▲ 0.0
調理食品	984.0	100.0	142.3	145.4	143.8	1.3	4.6	2.2	▲ 1.2	▲ 0.2
その他食品	105.0	100.0	96.6	100.8	103.1	2.0	1.8	4.4	2.3	0.0
酒類	2,029.9	100.0	92.7	92.4	87.0	0.1	▲ 0.4	▲ 0.3	▲ 5.9	▲ 1.1

注：(加工食品)は、食品製造業(総合)から飲料、酒類を除いたもの。

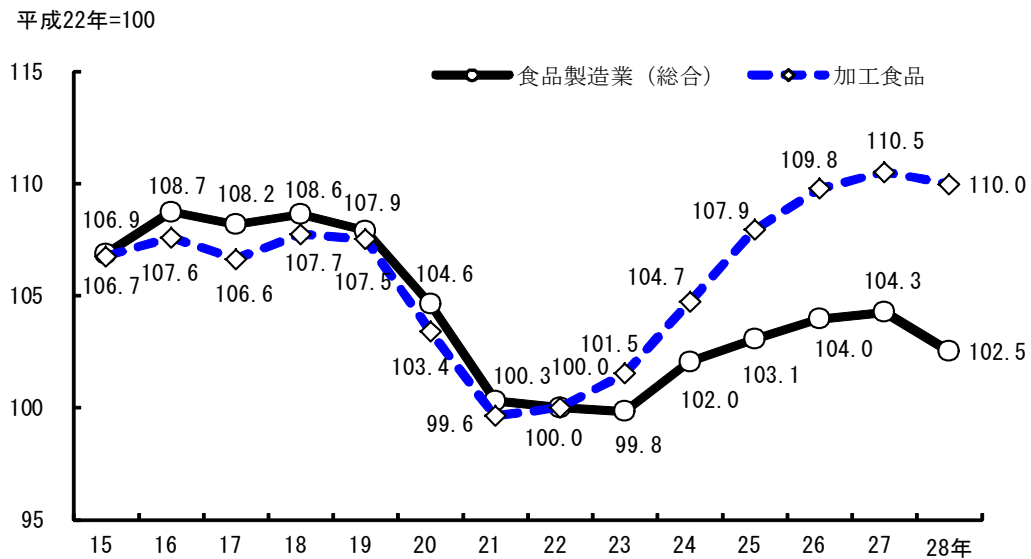
(2) 出荷指数

平成28年の食品製造業（総合）の出荷指数は102.5で、対前年比▲1.7%とわずかに低下

平成28年の食品製造業（総合）の出荷指数（平成22年=100）は102.5で、対前年比▲1.7%とわずかに低下した。うち、加工食品の出荷指数（平成22年=100）は110.0で、対前年比▲0.5%と前年並みとなった。食品製造業（総合）の出荷指数は畜産食料品が対前年比でプラスに寄与し、一方、農産食料品、製穀粉・同加工品、食用油・同加工品、飲料、調理食品及び酒類が対前年比でマイナスに寄与している。

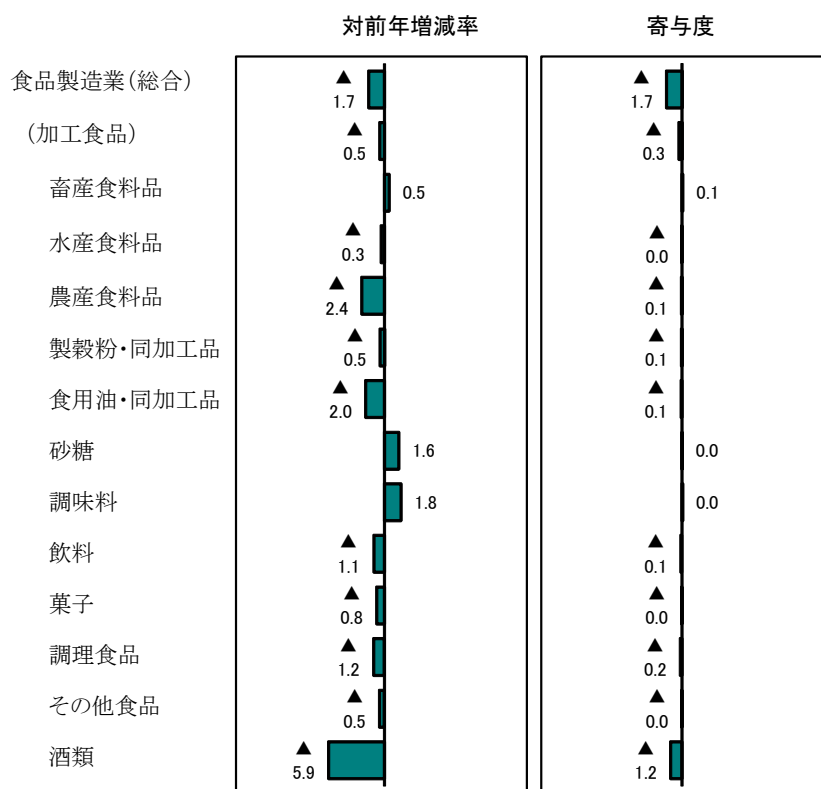
分野別にみると、砂糖及び調味料がわずかに上昇した。一方、酒類が対前年比でやや低下し、農産食料品、食用油・同加工品、飲料及び調理食品が対前年比でわずかに低下した。また、畜産食料品、水産食料品、製穀粉・同加工品、菓子及びその他食品は前年並みとなった。

図2-3 食品製造業出荷指数の推移



注：加工食品は、食品製造業（総合）から飲料、酒類を除いたもの。

図2-4 食品製造業の出荷指数の対前年増減率、寄与度



注：(加工食品)は、食品製造業(総合)から飲料、酒類を除いたもの。

表 2-2 食品製造業の出荷指数の推移

	ウェイト (22年)	指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度
		22年	26年	27年	28年	22年	26年	27年	28年	28/27年
食品製造業(総合)	10,000.0	100.0	104.0	104.3	102.5	▲ 0.3	0.9	0.3	▲ 1.7	▲ 1.7
(加工食品)	6,390.0	100.0	109.8	110.5	110.0	0.4	1.7	0.7	▲ 0.5	▲ 0.3
畜産食料品	1,787.7	100.0	105.5	103.3	103.8	0.2	▲ 0.6	▲ 2.1	0.5	0.1
水産食料品	362.8	100.0	97.0	97.8	97.4	3.4	2.5	0.8	▲ 0.3	▲ 0.0
農産食料品	334.2	100.0	84.5	85.2	83.1	▲ 1.4	▲ 1.6	0.8	▲ 2.4	▲ 0.1
製穀粉・同加工品	1,423.3	100.0	105.6	107.0	106.5	1.1	2.0	1.3	▲ 0.5	▲ 0.1
食用油・同加工品	407.1	100.0	113.1	113.4	111.1	▲ 4.9	1.4	0.3	▲ 2.0	▲ 0.1
砂糖	22.1	100.0	96.4	93.0	94.4	1.5	▲ 1.4	▲ 3.6	1.6	0.0
調味料	267.6	100.0	97.3	96.5	98.2	▲ 0.8	2.9	▲ 0.8	1.8	0.0
飲料	1,315.6	100.0	95.4	94.5	93.5	▲ 4.1	▲ 1.3	▲ 1.0	▲ 1.1	▲ 0.1
菓子	554.3	100.0	99.4	103.5	102.6	0.7	1.9	4.1	▲ 0.8	▲ 0.0
調理食品	1,112.3	100.0	142.3	145.4	143.8	1.3	4.6	2.2	▲ 1.2	▲ 0.2
その他食品	118.6	100.0	96.2	101.9	101.3	1.4	1.2	5.9	▲ 0.5	▲ 0.0
酒類	2,294.4	100.0	92.7	92.4	87.0	0.1	▲ 0.4	▲ 0.3	▲ 5.9	▲ 1.2

注：(加工食品)は、食品製造業(総合)から飲料、酒類を除いたもの。

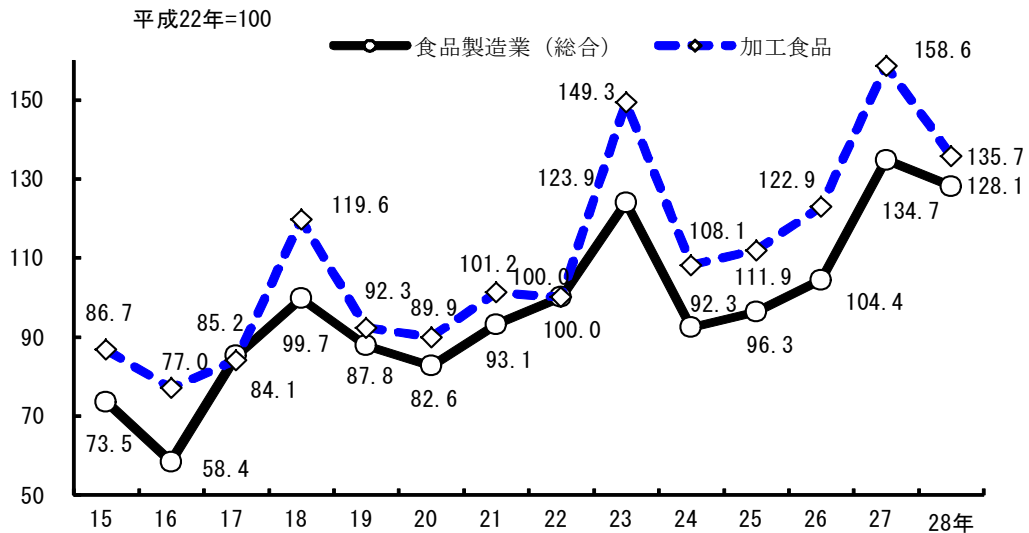
(3) 在庫指数

平成28年の食品製造業（総合）の在庫指数は128.1で、対前年比▲4.9%とやや低下

平成28年の食品製造業（総合）の在庫指数（平成22年=100）は128.1で、対前年比▲4.9%とやや低下した。うち、加工食品の在庫指数（平成22年=100）は135.7で、対前年比▲14.4%とかなり大きく低下した。

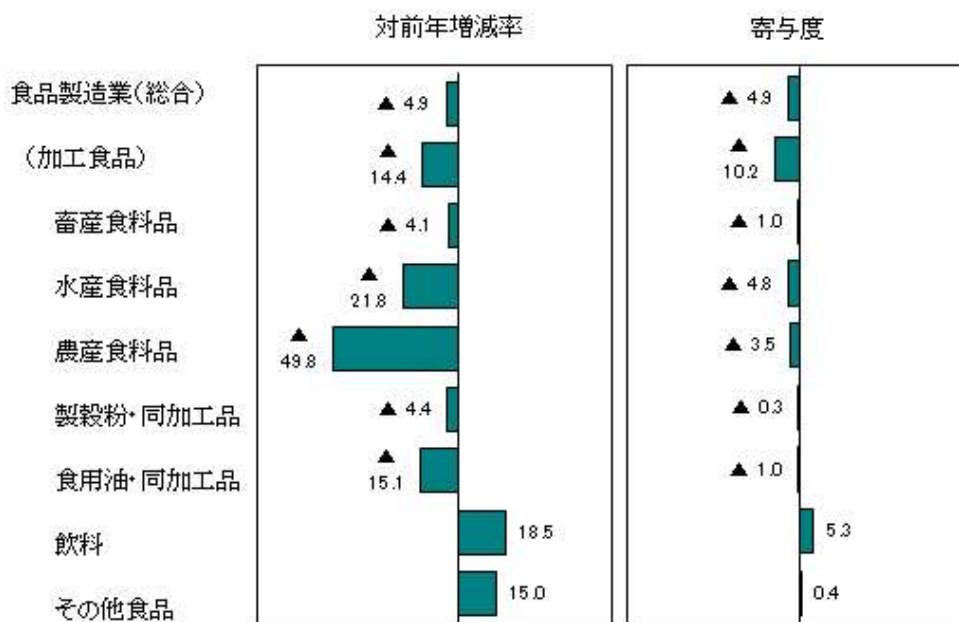
分野別にみると、飲料が対前年比で大幅に上昇し、その他食品がかなり大きく上昇した。一方、水産食料品及び農産食料品が対前年比で大幅に低下し、食用油・同加工品がかなり大きく低下し、畜産食料品及び製穀粉・同加工品がやや低下した。

図2-5 食品製造業在庫指数の推移



注：加工食品は、食品製造業（総合）から飲料、酒類を除いたもの。

図2-6 食品製造業の在庫指数の対前年増減率、寄与度



注：(加工食品)は、食品製造業(総合)から飲料、酒類を除いたもの。

表 2-3 食品製造業の在庫指数の推移

	ウェイト (22年)	指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 28/27年
		22年	26年	27年	28年	22年	26年	27年	28年	
食品製造業(総合)	10,000.0	100.0	104.4	134.7	128.1	7.4	8.4	29.0	▲ 4.9	▲ 4.9
(加工食品)	6,034.3	100.0	122.9	158.6	135.7	▲ 1.2	9.8	29.0	▲ 14.4	▲ 10.3
畜産食料品	1,455.0	100.0	140.6	232.6	223.0	▲ 14.1	7.5	65.4	▲ 4.1	▲ 1.0
水産食料品	1,605.0	100.0	130.1	184.2	144.0	15.3	▲ 10.5	41.5	▲ 21.8	▲ 4.8
農産食料品	1,001.5	100.0	95.6	94.1	47.2	15.5	100.7	▲ 1.5	▲ 49.8	▲ 3.5
製穀粉・同加工品	794.7	100.0	130.6	127.0	121.5	▲ 21.8	21.8	▲ 2.7	▲ 4.4	▲ 0.3
食用油・同加工品	716.1	100.0	104.4	127.6	108.4	▲ 2.4	▲ 2.4	22.2	▲ 15.1	▲ 1.0
飲料	3,965.7	100.0	76.1	98.3	116.5	23.8	5.1	29.1	18.5	5.3
その他食品	462.2	100.0	117.3	79.2	91.1	13.8	28.3	▲ 32.5	15.0	0.4

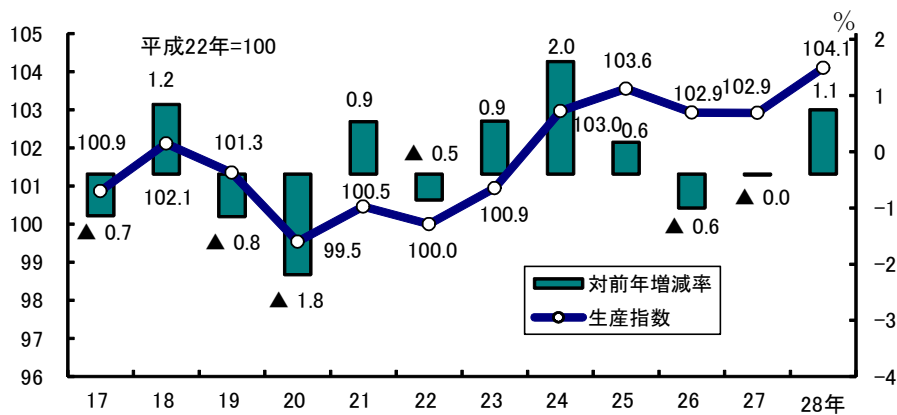
注：(加工食品)は、食品製造業(総合)から飲料、酒類を除いたもの。

1 畜産食料品

平成28年の畜産食料品の生産指数（平成22年=100、暫定値）は104.1で、対前年比1.1%とわずかに上昇した。平成25年以降横ばいで推移していたが、平成28年は平成24年以来4年振りに対前年比で上昇した。なかでも食肉加工品、飲用牛乳等、はっ酵乳・乳酸菌飲料、アイスクリームが対前年比でプラスに寄与している。

品目別にみると、食肉缶・びん詰が対前年比でかなりの程度上昇し、はっ酵乳・乳酸菌飲料及びアイスクリームがやや上昇し、食肉加工品及び飲用牛乳がわずかに上昇した。一方、乳飲料が対前年比でやや低下した。また、乳製品は前年並みとなった。

図2-7 畜産食料品の生産指数の推移



食肉加工品はわずかに上昇、ハム類は前年並み、ベーコン類及びソーセージ類は上昇

食肉加工品の生産量は54万トンで、生産指数は対前年比1.4%とわずかに上昇した。内訳についてみると、ハム類の生産量は10万5千トンで、生産指数は対前年比0.1%と前年並み、ベーコン類については生産量が9万2千トンで、生産指数は対前年比3.6%とやや上昇、ソーセージ類については生産量が31万トンで、生産指数は対前年比1.2%でわずかに上昇した。

飲用牛乳等はわずかに上昇、乳飲料はやや低下、はっ酵乳・乳酸菌飲料はやや上昇

飲用牛乳等の生産量は349万1千klで、生産指数は対前年比1.0%とわずかに上昇した。また、乳飲料は123万6千klで、生産指数は対前年比▲5.3%でやや低下した。一方、はっ酵乳・乳酸菌飲料は181万6千klで、生産指数は対前年比3.1%とやや上昇した。

乳製品は前年並み、チーズ、脱脂粉乳、バターは上昇

乳製品の生産指数は102.6で対前年比▲0.5%と前年並みとなった。内訳についてみるとチーズの生産量は14万4千トンで、生産指数は対前年比1.3%とわずかに上昇した。脱脂粉乳の生産量は12万8千トンで、生産指数は対前年比5.1%とやや上昇した。また、バターについても6万6千トンで、生産指数は対前年比2.2%とわずかに上昇した。

図2-8 畜産食料品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

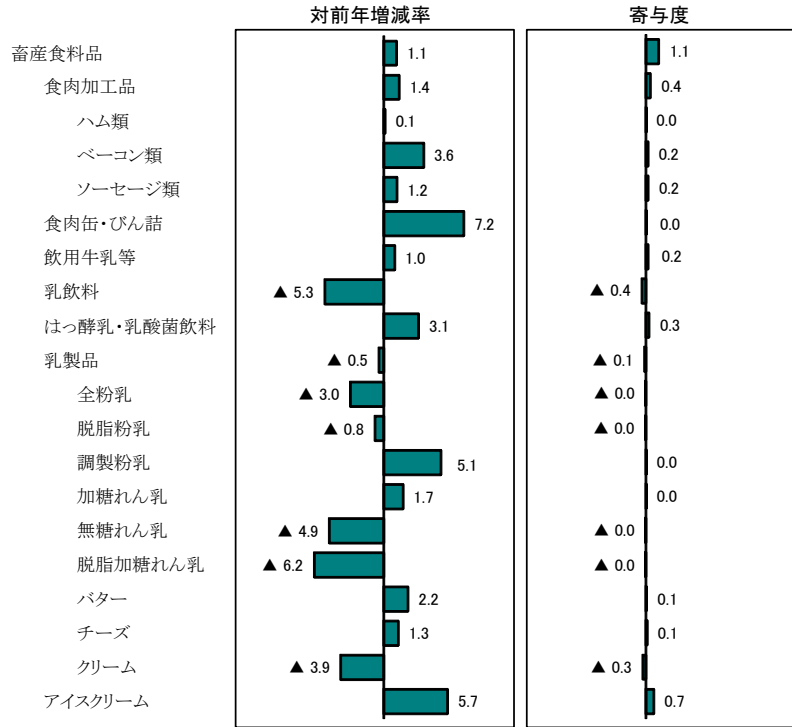


表 2-4 畜産食料品の品目別生産指数の推移

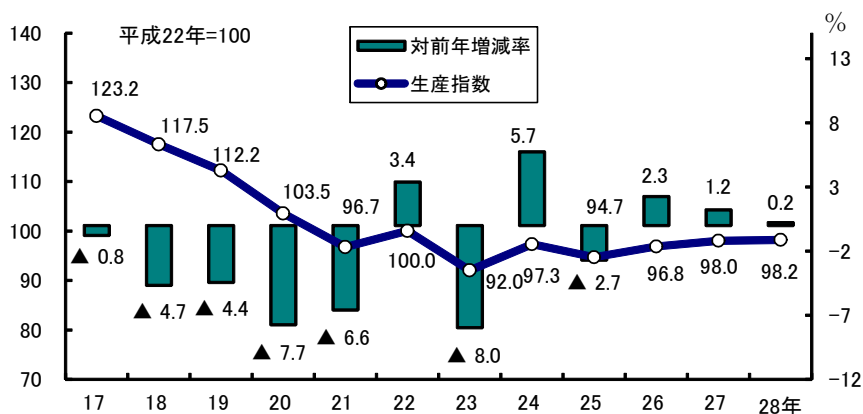
品目	年次 ウェイト (22年)	生産指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 28/27年
		22年	26年	27年	28年	22年	26年	27年	28年	
畜産食料品	1,581.5	100.0	102.9	102.9	104.1	▲ 0.5	▲ 0.6	▲ 0.0	1.1	1.1
食肉加工品	457.8	100.0	106.0	104.8	106.3	▲ 0.9	1.0	▲ 1.2	1.4	0.4
ハム類	99.1	100.0	102.7	101.5	101.6	▲ 2.2	▲ 1.1	▲ 1.2	0.1	0.0
ベーコン類	77.7	100.0	107.3	109.3	113.2	▲ 0.5	0.0	1.8	3.6	0.2
ソーセージ類	280.9	100.0	106.9	104.8	106.0	▲ 0.5	2.0	▲ 2.0	1.2	0.2
食肉缶・びん詰	1.5	100.0	207.9	222.0	237.9	▲ 0.7	87.3	6.8	7.2	0.0
飲用牛乳等	370.8	100.0	92.2	92.3	93.2	▲ 1.5	▲ 1.4	0.0	1.0	0.2
乳飲料	103.5	100.0	109.8	107.8	102.1	2.1	▲ 2.7	▲ 1.9	▲ 5.3	▲ 0.4
はっ酵乳・乳酸菌飲料	122.7	100.0	118.6	122.6	126.5	1.3	0.3	3.4	3.1	0.3
乳製品	334.2	100.0	97.6	103.0	102.6	▲ 1.3	▲ 3.1	5.5	▲ 0.5	▲ 0.1
全粉乳	3.0	100.0	91.1	89.5	86.8	5.5	12.2	▲ 1.8	▲ 3.0	▲ 0.0
脱脂粉乳	35.3	100.0	77.0	82.6	82.0	▲ 7.0	▲ 12.1	7.3	▲ 0.8	▲ 0.0
調製粉乳	7.5	100.0	80.9	79.9	83.9	▲ 5.6	16.3	▲ 1.3	5.1	0.0
加糖れん乳	8.2	100.0	93.2	95.6	97.3	▲ 7.5	▲ 2.1	2.6	1.7	0.0
無糖れん乳	0.2	100.0	70.8	66.4	63.2	1.4	▲ 0.3	▲ 6.2	▲ 4.9	▲ 0.0
脱脂加糖れん乳	1.0	100.0	88.6	83.5	78.3	▲ 15.9	▲ 0.7	▲ 5.8	▲ 6.2	▲ 0.0
バター	53.2	100.0	82.5	88.0	89.9	▲ 8.8	▲ 11.0	6.7	2.2	0.1
チーズ	119.5	100.0	101.6	113.8	115.3	2.3	▲ 4.7	12.1	1.3	0.1
クリーム	106.3	100.0	109.5	108.0	103.8	1.9	3.3	▲ 1.4	▲ 3.9	▲ 0.3
アイスクリーム	191.1	100.0	110.9	102.7	108.6	1.5	0.9	▲ 7.4	5.7	0.7

2 水産食料品

平成28年の水産食料品の生産指数（平成22年=100、暫定値）は98.2で、対前年比0.2%と前年並みとなった。

品目別にみると、ちくわ・かまぼこ類はやや上昇した。一方、水産缶・びん詰は大幅に低下した。

図2-9 水産食料品の生産指数の推移



ちくわ・かまぼこ類はやや上昇、水産缶・びん詰は大幅に低下

ちくわ・かまぼこ類の生産量は49万3千トンで、生産指数は対前年比4.7%とやや上昇した。一方、水産缶・びん詰の生産量は8万1千トンで、生産指数は対前年比▲17.4%と大幅に低下した。

図2-10 水産食料品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

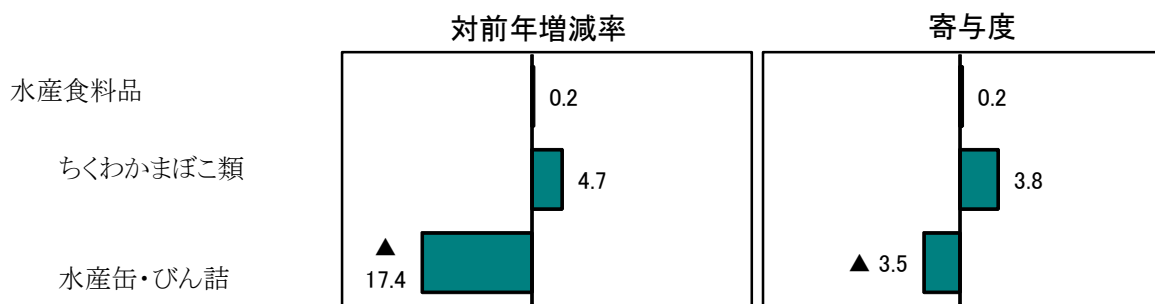


表 2-5 水産食料品の品目別生産指数の推移

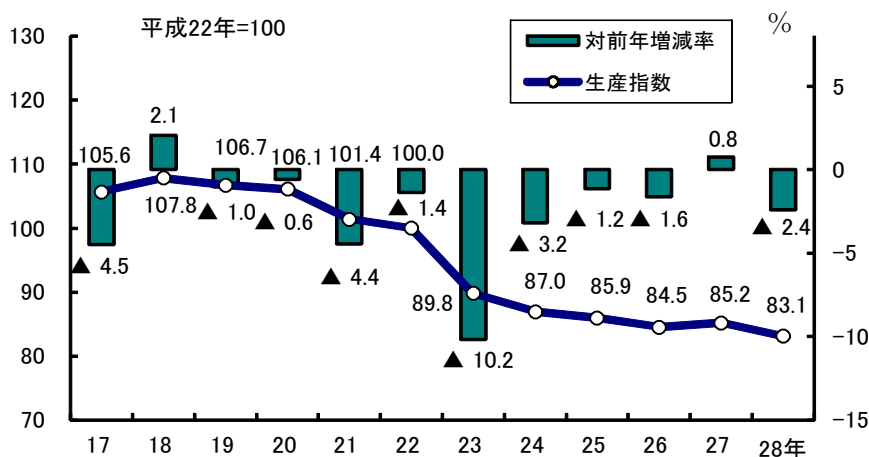
年次 品目	ウェイト (22年)	指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 28/27年
		22年	26年	27年	28年	22年	26年	27年	28年	
水産食料品	321.0	100.0	96.8	98.0	98.2	3.4	2.3	1.2	0.2	0.2
ちくわかまぼこ類	249.5	100.0	100.4	100.4	105.1	6.6	0.7	0.0	4.7	3.8
水産缶・びん詰	71.5	100.0	84.5	89.7	74.2	▲6.4	9.3	6.2	▲17.4	▲3.5

3 農産食料品

平成28年の農産食料品の生産指数（平成22年=100、暫定値）は83.1で、対前年比▲2.4%とわずかに低下した。

品目別にみると、農産缶・びん詰はかなりの程度低下し、トマト加工品はわずかに低下した。また、野菜・果実漬物及び乾燥野菜は前年並みとなった。

図2-11 農産食料品の生産指数の推移



野菜・果実漬物は前年並み

野菜・果実漬物の生産量は71万8千トンで、生産指数は対前年比▲0.6%と前年並みとなった。内訳についてみると、塩漬類の生産量は11万5千トンで、生産指数は対前年比5.3%とやや上昇、酢漬類の生産量は8万1千トンで、生産指数は対前年比8.4%とかなりの程度の上昇となった。一方、浅漬類の生産量は13万トンで、生産指数は対前年比▲3.1%とやや低下した。また、醤油漬類も30万4千トンで、生産指数は対前年比▲4.6%とやや低下した。

農産缶・びん詰はかなりの程度低下

農産缶・びん詰の生産量は11万6千トンで、生産指数は対前年比▲10.2%とかなりの程度低下した。内訳についてみると、野菜缶が1万5千トンで、生産指数は対前年比▲29.5%と大幅に低下した。近年、加工野菜の消費については多様化しており、レトルトや冷凍、カット野菜での消費、また紙パックでの野菜ジュースの浸透等も野菜缶の減少に影響しているとみられる。また果実缶は8万2千トンで、生産指数は対前年比▲3.5%、ジャムびんの生産量は1万9千トンで、生産指数は対前年比▲5.4%といずれもやや低下した。

トマト加工品はわずかに低下

トマト加工品の生産量は9万8千トンで、生産指数は対前年比▲2.6%とわずかに低下した。その他トマトの生産量は前年を上回ったものの、トマトケチャップ及びトマトピュー

ーレの生産量は前年を下回ったため、全体ではわずかに低下した。

図2-12 農産食料品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

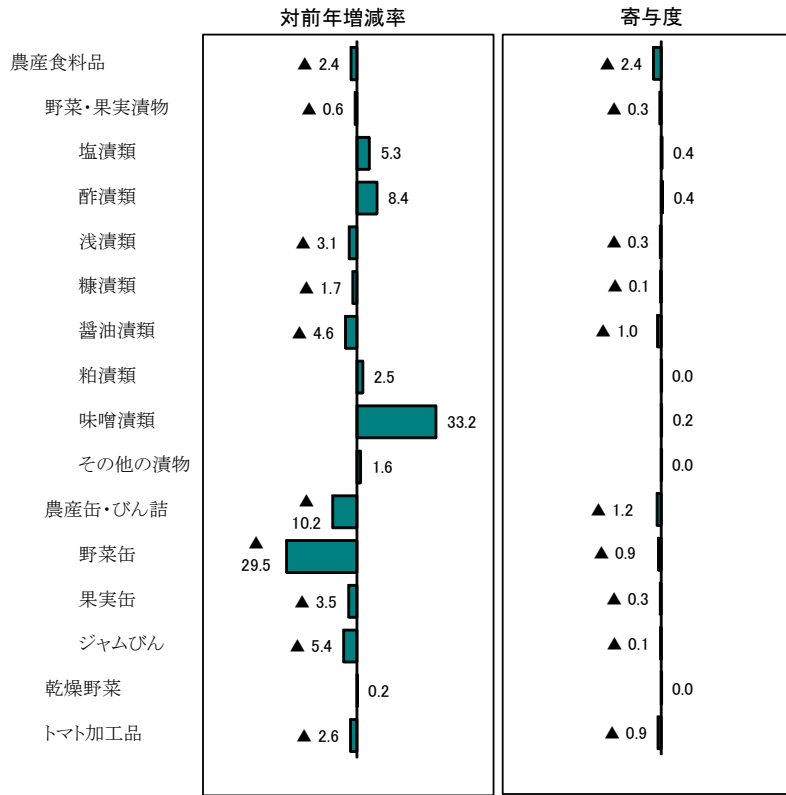


表 2-6 農産食料品の品目別生産指数の推移

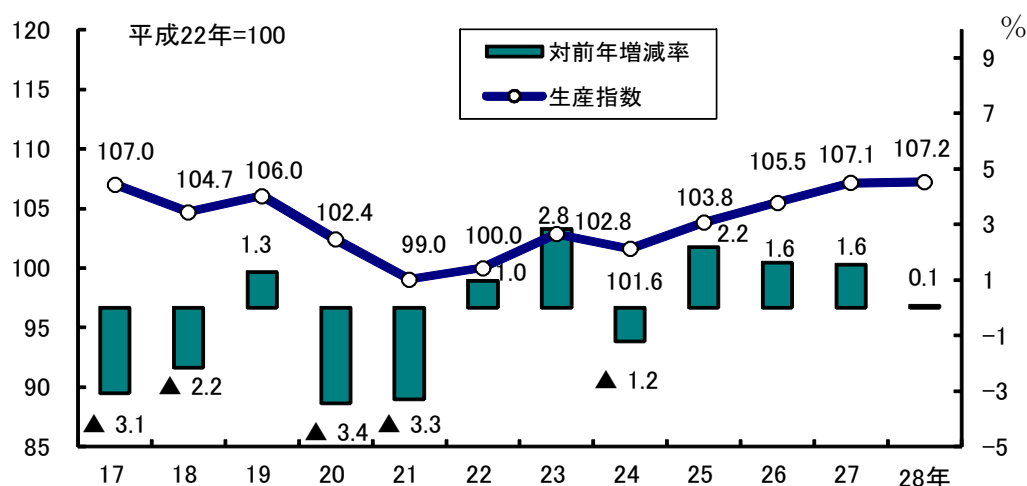
品目	年次 ウェイト (22年)	指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 28/27年
		22年	26年	27年	28年	22年	26年	27年	28年	
農産食料品	451.3	100.0	84.5	85.2	83.1	▲ 1.4	▲ 1.6	0.8	▲ 2.4	▲ 2.4
野菜・果実漬物	234.3	100.0	80.8	82.8	82.3	▲ 4.1	▲ 1.9	2.5	▲ 0.6	▲ 0.3
塩漬類	36.0	100.0	74.8	81.0	85.4	1.6	1.3	8.4	5.3	0.4
酢漬類	26.5	100.0	71.5	75.8	82.2	▲ 0.4	▲ 0.5	6.0	8.4	0.4
浅漬類	41.7	100.0	76.3	86.4	83.7	▲ 0.3	8.2	13.3	▲ 3.1	▲ 0.3
糠漬類	20.0	100.0	67.6	62.3	61.3	▲ 10.0	▲ 6.0	▲ 7.9	▲ 1.7	▲ 0.1
醤油漬類	96.2	100.0	90.8	89.1	84.9	▲ 8.1	▲ 4.6	▲ 2.0	▲ 4.6	▲ 1.0
粕漬類	9.2	100.0	73.1	67.2	68.9	6.4	▲ 0.9	▲ 8.1	2.5	0.0
味噌漬類	2.0	100.0	79.2	101.9	135.7	▲ 1.7	▲ 13.8	28.6	33.2	0.2
その他の漬物	2.7	100.0	88.9	90.5	91.9	▲ 5.5	▲ 28.5	1.7	1.6	0.0
農産缶・びん詰	61.3	100.0	75.7	73.4	65.9	3.7	▲ 0.9	▲ 3.1	▲ 10.2	▲ 1.2
野菜缶	28.2	100.0	45.0	39.4	27.8	▲ 2.4	▲ 11.3	▲ 12.4	▲ 29.5	▲ 0.9
果実缶	22.8	100.0	121.6	123.7	119.4	15.9	5.9	1.7	▲ 3.5	▲ 0.3
ジャムびん	10.3	100.0	58.2	55.0	52.1	▲ 2.5	▲ 5.6	▲ 5.4	▲ 5.4	▲ 0.1
乾燥野菜	14.2	100.0	51.6	51.6	51.7	▲ 3.6	▲ 2.0	0.0	0.2	0.0
トマト加工品	141.5	100.0	97.9	97.6	95.1	1.4	▲ 1.5	▲ 0.3	▲ 2.6	▲ 0.9

4 製穀粉・同加工品

平成 28 年の製穀粉・同加工品の生産指数（平成 22 年=100、暫定値）は 107.2 で、対前年比 0.1 %と前年並みとなった。平成 24 年以降上昇傾向で推移していたが、平成 28 年は対前年比で横這いで推移している。

品目別にみると、製粉・穀粉がわずかに低下した。また、めん類、パン及びパン粉は前年並みとなった。

図2-13 製穀粉・同加工品の生産指数の推移



製粉・穀粉はわずかに低下

製粉・穀粉の生産量は 45 万 2 千トンで、生産指数は対前年比▲ 2.2 %とわずかに低下した。プレミックスが▲ 2.5 %、米穀粉が▲ 2.1 %といずれもわずかに低下した。

めん類は前年並み、即席めん類はわずかに上昇

めん類の生産量は 140 万 9 千トンで、生産指数は対前年比 0.9 %と前年並みとなった。内訳についてみると、生めん類の生産量は 65 万 2 千トンで、生産指数は対前年比 4.5 %とやや上昇した。一方、乾めん類は 18 万 6 千トンで、生産指数は対前年比▲ 4.8 %とやや低下した。即席めん類は 41 万 9 千トンで、生産指数は対前年比 1.2 %とわずかに上昇した。また、マカロニ類は 15 万 2 千トンで、生産指数は対前年比▲ 6.9 %とかなりの程度低下した。

パンは前年並み

パンの生産量は 123 万 8 千トンで、生産指数は対前年比▲ 0.0 %と前年並みとなった。内訳についてみると、食パンの生産量は 60 万 4 千トンで、生産指数は対前年比▲ 0.1 %、菓子パンも 40 万 3 千トンで、生産指数は対前年比 0.0 %と前年並みとなった。また、学給パンは 2 万 4 千トンで、生産指数は対前年比▲ 1.6 %とわずかに低下した。一方、その他パンは 20 万 6 千トンで、生産指数は対前年比 2.2 %とわずかに上昇した。

図2-14 製穀粉・同加工品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

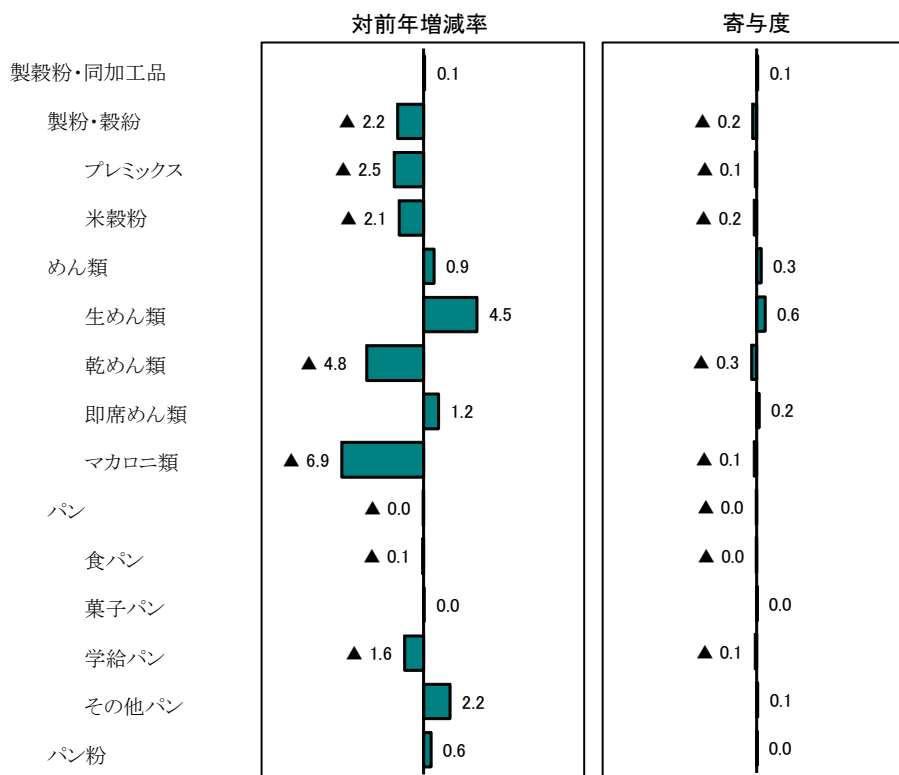


表 2-7 製穀粉・同加工品の品目別生産指数の推移

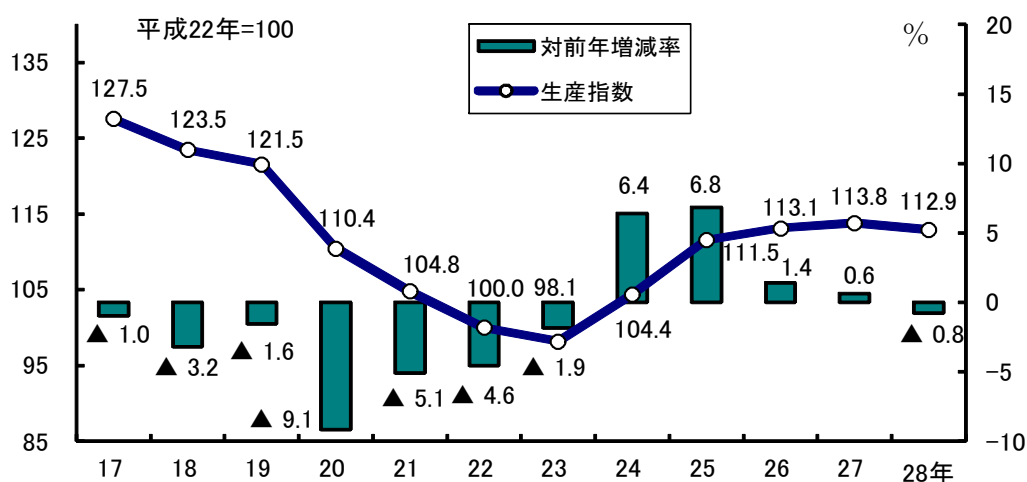
品目	年次 ウェイト (22年)	生産指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 28/27年
		22年	26年	27年	28年	22年	26年	27年	28年	
製穀粉・同加工品	1,577.6	100.0	105.5	107.1	107.2	1.0	1.6	1.6	0.1	0.1
製粉・穀粉	172.5	100.0	105.4	110.6	108.2	1.1	▲ 1.1	5.0	▲ 2.2	▲ 0.2
プレミックス	58.6	100.0	96.4	97.2	94.8	3.5	1.0	0.9	▲ 2.5	▲ 0.1
米穀粉	113.9	100.0	110.0	117.5	115.1	▲ 0.1	▲ 2.0	6.8	▲ 2.1	▲ 0.2
めん類	587.0	100.0	111.7	113.0	113.9	▲ 1.3	3.7	1.1	0.9	0.3
生めん類	206.6	100.0	104.1	112.5	117.6	▲ 2.6	2.7	8.1	4.5	0.6
乾めん類	123.5	100.0	105.2	96.2	91.6	4.8	0.0	▲ 8.5	▲ 4.8	▲ 0.3
即席めん類	221.8	100.0	123.4	124.6	126.1	▲ 3.9	6.4	0.9	1.2	0.2
マカロニ類	35.1	100.0	105.7	101.5	94.5	3.2	4.3	▲ 4.0	▲ 6.9	▲ 0.1
パン	787.4	100.0	101.0	102.1	102.1	2.7	0.5	1.1	▲ 0.0	▲ 0.0
食パン	224.3	100.0	105.6	105.0	104.9	0.6	1.7	▲ 0.6	▲ 0.1	▲ 0.0
菓子パン	389.5	100.0	103.0	107.4	107.4	5.1	0.8	4.3	0.0	0.0
学給パン	115.2	100.0	86.1	82.9	81.6	1.5	▲ 1.9	▲ 3.7	▲ 1.6	▲ 0.1
その他パン	58.4	100.0	99.4	93.7	95.8	▲ 2.0	▲ 2.1	▲ 5.7	2.2	0.1
パン粉	30.7	100.0	102.0	104.4	105.0	1.5	2.2	2.3	0.6	0.0

5 食用油・同加工品

平成 28 年の食用油・同加工品の生産指数（平成 22 年=100、暫定値）は 112.9 で、対前年比▲ 0.8 %と前年並みとなった。平成 23 年までは低下傾向で推移し、その後は前年を上昇傾向で推移していたが、平成 26 年以降は対前年比で横這いで推移している

品目別にみると、植物油脂は対前年比でわずかに低下した。また、加工油脂は、前年並みとなった。

図2-15 食用油・同加工品の生産指数の推移



植物油脂はわずかに低下、加工油脂は前年並み

植物油脂の生産量は 167 万 7 千トンで、生産指数は対前年比▲ 1.0 %とわずかに低下した。また、加工油脂の生産量は 54 万トンで、生産指数は対前年比▲ 0.7 %と前年並みとなった。加工油脂について内訳をみると、マーガリンは 15 万 1 千トンで、生産指数は対前年比 0.1 %と前年並みとなった。また、食用精製加工油脂は 4 万トンで、生産指数は対前年比▲ 1.4 %とわずかに低下した。

図2-16 食用油・同加工品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

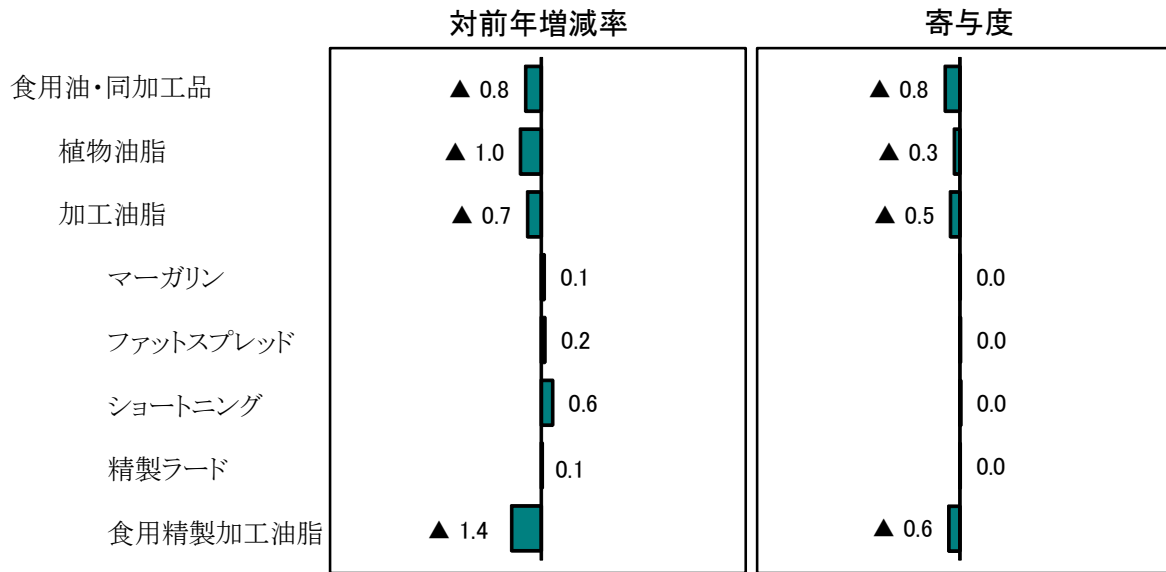


表 2-8 食用油・同加工品の品目別生産指数の推移

品目	年次 ウェイト (22年)	生産指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 28/27年
		22年	26年	27年	28年	22年	26年	27年	28年	
食用油・同加工品	360.2	100.0	113.1	113.8	112.9	▲ 4.6	1.4	0.6	▲ 0.8	▲ 0.8
植物油脂	111.3	100.0	100.4	102.3	101.2	3.5	2.6	1.9	▲ 1.0	▲ 0.3
加工油脂	248.9	100.0	118.8	119.0	118.2	▲ 7.7	1.0	0.2	▲ 0.7	▲ 0.5
マーガリン	31.2	100.0	97.3	98.1	98.3	▲ 0.9	▲ 6.6	0.8	0.1	0.0
ファットスプレッド	69.7	100.0	96.0	96.9	97.0	▲ 2.9	▲ 5.0	0.9	0.2	0.0
ショートニング	26.7	100.0	119.5	122.2	122.8	▲ 1.4	2.7	2.3	0.6	0.0
精製ラード	5.3	100.0	93.6	81.4	81.4	▲ 45.0	▲ 7.4	▲ 13.1	0.1	0.0
食用精製加工油脂	115.9	100.0	139.3	138.8	136.8	▲ 10.6	5.2	▲ 0.3	▲ 1.4	▲ 0.6

6 砂糖

平成 28 年の砂糖の生産指数（平成 22 年=100、一部推定を含む暫定値）は 94.4 で、対前年比 1.6 %とわずかに上昇した。

近年の砂糖の推移についてみると、平成 25 年以降低下傾向で推移していたが、平成 28 年は対前年比で上昇に転じている。

品目別にみると、冰糖が対前年比で大幅に上昇し、グラニュー糖、白双、上白、角糖及び液糖がわずかに上昇した。一方、中双が対前年比でかなり大きく低下し、中白及び三温がやや低下した。

図2-17 砂糖の生産指数の推移

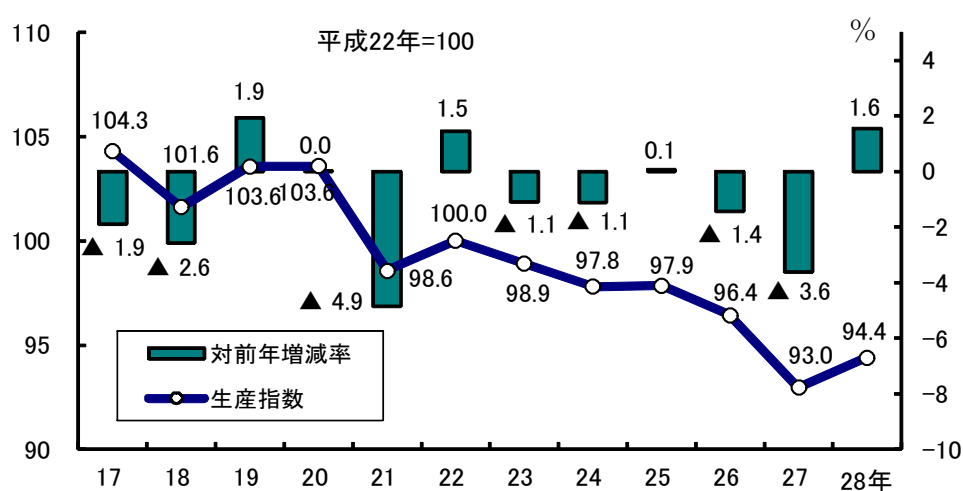


図 2-18 砂糖の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

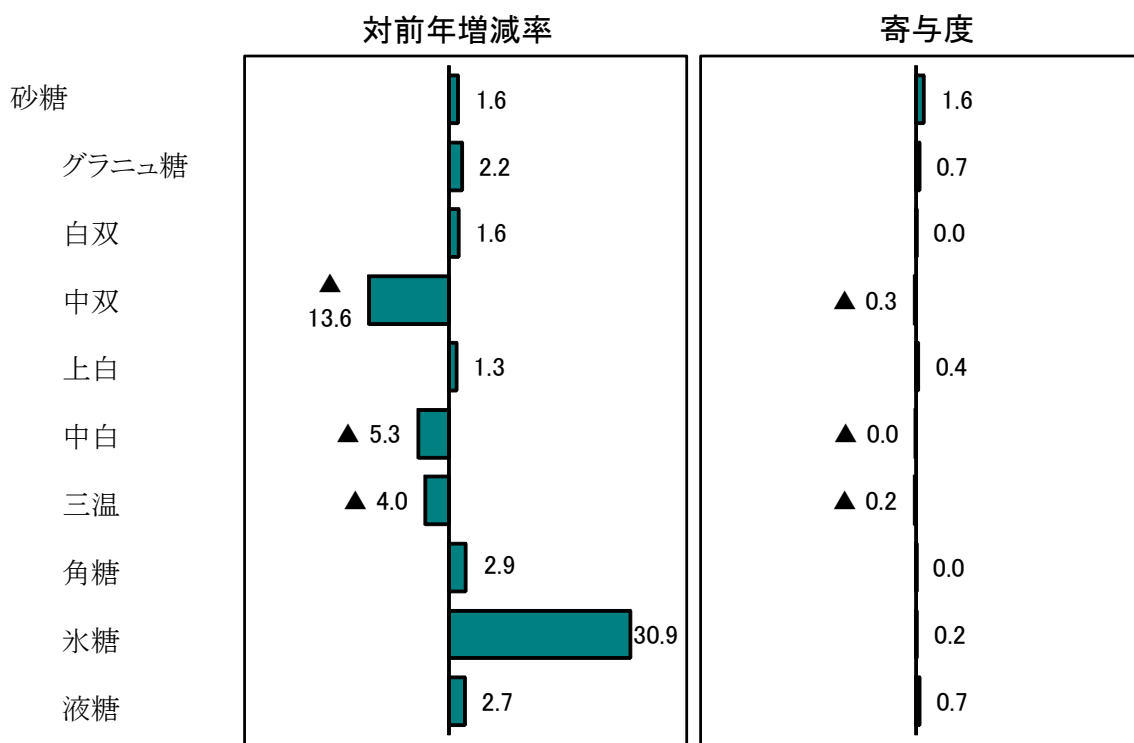


表2-9 砂糖の品目別生産指数の推移

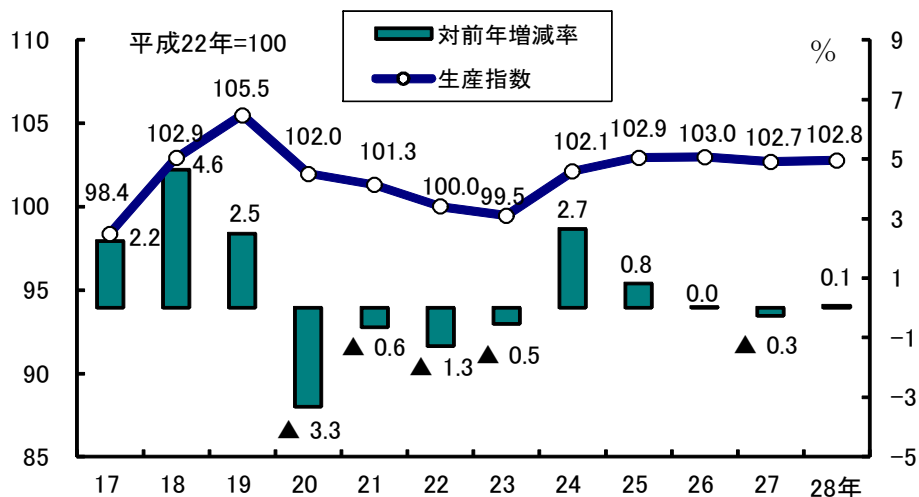
品目	年次 ウエイト (22年)	生産指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 28/27年
		22年	26年	27年	28年	22年	26年	27年	28年	
砂糖	19.5	100.0	96.4	93.0	94.4	1.5	▲ 1.4	▲ 3.6	1.6	1.6
グラニュー糖	5.9	100.0	94.9	93.6	95.7	8.1	▲ 2.3	▲ 1.3	2.2	0.7
白双	0.4	100.0	91.9	94.0	95.5	▲ 3.2	▲ 4.7	2.2	1.6	0.0
中双	0.4	100.0	78.4	78.9	68.2	▲ 2.6	▲ 7.1	0.6	▲ 13.6	▲ 0.3
上白	7.3	100.0	92.4	86.1	87.2	▲ 3.7	▲ 2.3	▲ 6.9	1.3	0.4
中白	0.0	100.0	77.8	80.7	76.4	▲ 1.6	▲ 12.0	3.7	▲ 5.3	▲ 0.0
三温	1.0	100.0	94.0	94.0	90.2	▲ 2.8	▲ 2.1	▲ 0.0	▲ 4.0	▲ 0.2
角糖	0.1	100.0	60.4	58.8	60.5	8.7	▲ 10.2	▲ 2.7	2.9	0.0
氷糖	0.1	100.0	102.8	85.9	112.5	▲ 12.2	2.2	▲ 16.4	30.9	0.2
液糖	4.2	100.0	108.8	105.7	108.6	3.1	2.7	▲ 2.8	2.7	0.7

7 調味料

平成 28 年の調味料の生産指数（平成 22 年=100、暫定値）は 102.8 で、対前年比 0.1 % と前年並みとなった。

品目別にみると、みそ及びマヨネーズは対前年比でやや上昇し、しょうゆ等はわずかに上昇した。一方、ドレッシングは対前年比でわずかに低下した。

図2-19 調味料の生産指数の推移



しょうゆ等はわずかに上昇、味噌はやや上昇

しょうゆ等の生産量は 108 万 2 千 kl で、生産指数は対前年比 1.0 % とわずかに上昇した。また、味噌も 47 万 6 千トンで、生産指数は対前年比 3.1 % とやや上昇した。

マヨネーズはやや上昇、ドレッシングはわずかに低下

マヨネーズの生産量は 22 万 2 千トンで、生産指数は対前年比 3.4 % とやや上昇した。一方、ドレッシングの生産量は 19 万 1 千トンで、生産指数は対前年比 ▲ 1.7 % とわずかに低下した。

図2-20 調味料の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

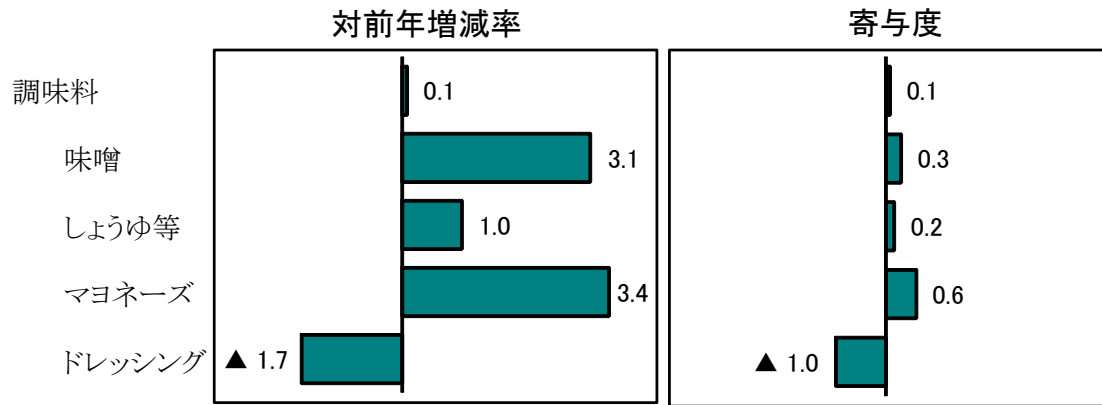


表 2-10 調味料の品目別生産指数の推移

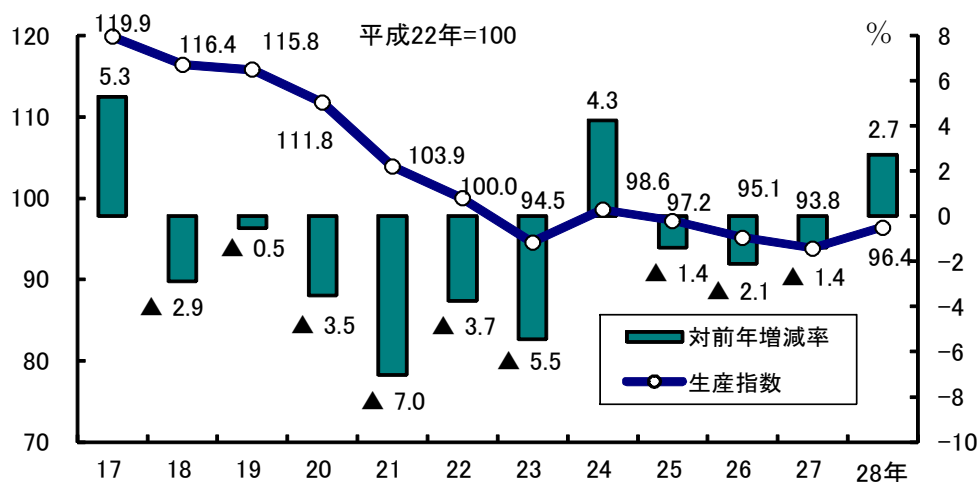
品目	年次	ウェイト (22年)	生産指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 28/27年
			22年	26年	27年	28年	22年	26年	27年	28年	
調味料		865.0	100.0	103.0	102.7	102.8	▲ 1.3	0.0	▲ 0.3	0.1	0.1
味噌		83.9	100.0	99.8	100.0	103.1	1.1	8.3	0.1	3.1	0.3
しょうゆ等		152.8	100.0	95.9	94.6	95.5	▲ 1.8	0.0	▲ 1.4	1.0	0.2
マヨネーズ		142.9	100.0	104.4	105.1	108.7	▲ 2.3	1.6	0.7	3.4	0.6
ドレッシング		485.4	100.0	105.3	105.0	103.3	▲ 1.2	▲ 1.6	▲ 0.3	▲ 1.7	▲ 1.0

8 飲料

平成 28 年の飲料の生産指数（平成 22 年=100、暫定値）は 96.4 で、対前年比 2.7 %とわずかに上昇した。特にトマト飲料の上昇の効果が大きくなっている。

品目別にみるとトマト飲料対前年比で大幅に上昇し、果実飲料はかなりの程度上昇し、コーヒー・茶系飲料はわずかに上昇した。一方、炭酸飲料はわずかに低下した。近年の飲料の推移についてみると、平成 25 年以降低下傾向で推移していたのが、平成 28 年に対前年比で上昇に転じている。

図2-21 飲料の生産指数の推移



炭酸飲料はわずかに低下、果実飲料はかなりの程度上昇

炭酸飲料の生産量は 232 万 8 千 kl で、生産指数は対前年比▲ 1.7 %とわずかに低下した。一方、果実飲料は生産量が 84 万 1 千 kl で、生産指数は対前年比 6.7 %とかなりの程度上昇した。

コーヒー・茶系飲料はわずかに上昇

コーヒー・茶系飲料の生産量は 887 万 6 千 kl で、生産指数は対前年比 2.0 %とわずかに上昇した。

トマト飲料は大幅に上昇

トマト飲料の生産量は 7 万 8 千 kl で、生産指数は対前年比 18.1 %と大幅に上昇した。

大手メーカーが機能性表示食品としてのトマトジュースを開発・販売したことが一因と考えられる。

図2-22 飲料の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

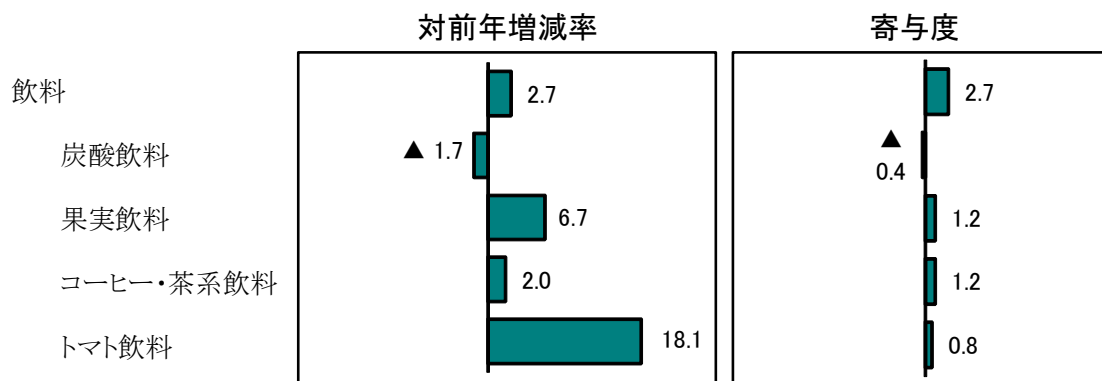


表 2-11 飲料の品目別生産指数の推移

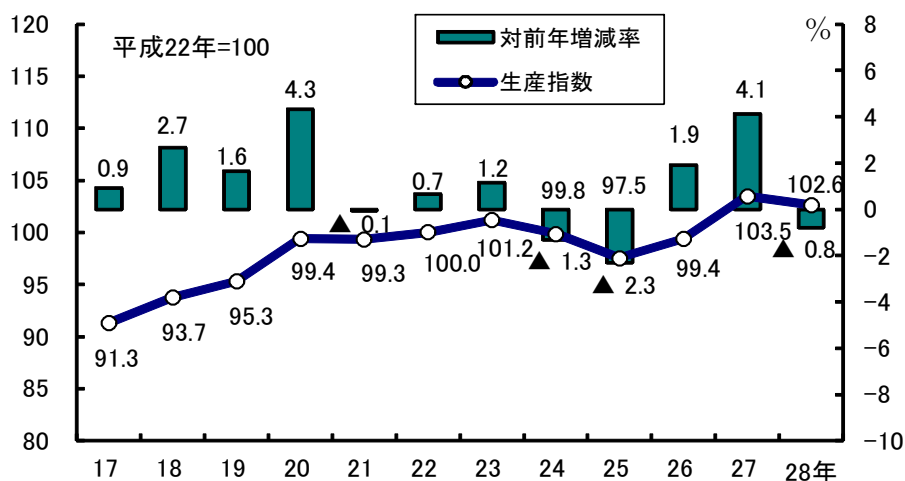
品目	年次 ウエイト (22年)	生産指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 28/27年
		22年	26年	27年	28年	22年	26年	27年	28年	
飲料	1,214.6	100.0	95.1	93.8	96.4	▲ 3.7	▲ 2.1	▲ 1.4	2.7	2.7
炭酸飲料	261.8	100.0	98.6	95.2	93.6	2.7	▲ 3.6	▲ 3.4	▲ 1.7	▲ 0.4
果実飲料	285.5	100.0	74.7	69.5	74.2	▲ 18.0	▲ 3.0	▲ 6.9	6.7	1.2
コーヒー・茶系飲料	616.5	100.0	102.4	104.4	106.5	1.2	0.6	1.9	2.0	1.2
トマト飲料	50.7	100.0	103.9	94.7	111.9	2.5	▲ 19.2	▲ 8.8	18.1	0.8

9 菓子

平成 28 年の菓子の生産指数（平成 22 年=100、暫定値）は 102.6 で、対前年比▲ 0.8 % と前年並みとなった。

品目別にみると、米菓は対前年比でわずかに低下した。またビスケットは前年並みとなった。

図2-23 菓子の生産指数の推移



ビスケットは前年並み、米菓はわずかに低下

ビスケットの生産量は 25 万 8 千トンで、生産指数は対前年比▲ 0.5 % と前年並みとなった。また、米菓の生産量は 21 万 8 千トンで、生産指数は対前年比▲ 1.2 % とわずかに低下した。

図2-24 菓子の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

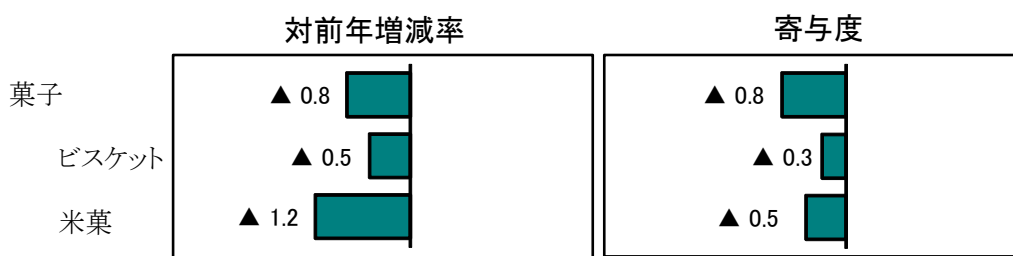


表 1-12 菓子の品目別生産指数の推移

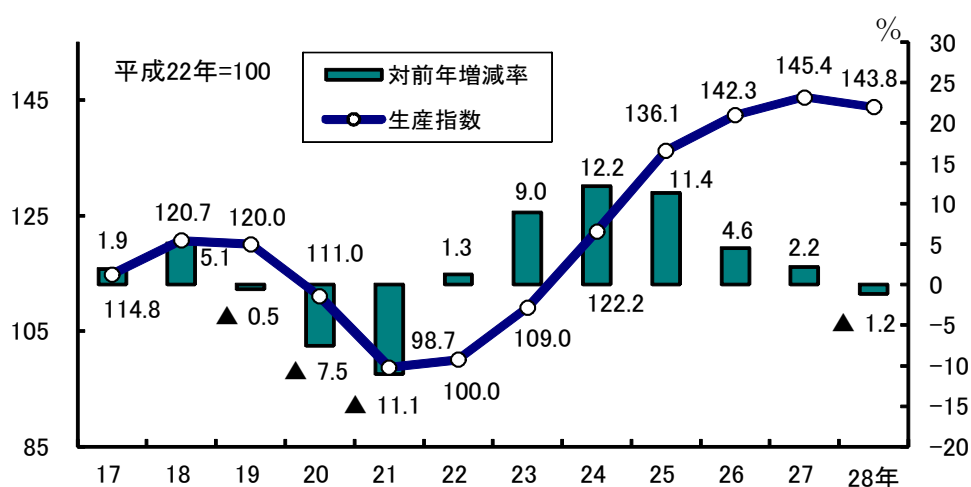
年次 品目	ウェイト (22年)	生産指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 28/27年
		22年	26年	27年	28年	22年	26年	27年	28年	
菓子	490.4	100.0	99.4	103.5	102.6	0.7	1.9	4.1	▲ 0.8	▲ 0.8
ビスケット	274.7	100.0	101.3	107.3	106.7	▲ 0.6	3.3	5.9	▲ 0.5	▲ 0.3
米菓	215.7	100.0	97.0	98.6	97.4	2.3	0.1	1.7	▲ 1.2	▲ 0.5

10 調理食品

平成28年の調理食品の生産指数（平成22年=100、暫定値）は143.8で、対前年比▲1.2%とわずかに低下した。

近年の調理食品の推移についてみると、平成21年まで減少傾向で推移したが、その後は上昇に転じており、特に平成23年の東日本大震災以降は備蓄需要の高まりから、無菌包装米飯や冷凍米飯の市場拡大が、拡大幅は縮小してきていたものの続いていたが、平成28年には対前年比で低下に転じている。

図2-25 調理食品の生産指数の推移



加工米飯は前年並み

加工米飯の生産量は34万7千トンで、生産指数は対前年比▲0.8%と前年並みとなった。加工米飯のなかでは無菌包装米飯の生産量が増加しており、手軽に食べられる簡便化志向のニーズに適していることが一因とみられる。

カレーは前年並み、その他の調理食品はかなりの程度低下

調理缶・レトルトパウチの生産量は35万8千トンで、生産指数は対前年比▲4.9%とやや低下した。内訳についてみると、カレーの生産量は13万2千トンで、生産指数は対前年比▲0.4%と前年並みとなり、一方、その他の調理食品の生産量は22万6千トンで、生産指数は対前年比▲7.3%とかなりの程度低下した。

図2-26 調理食品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

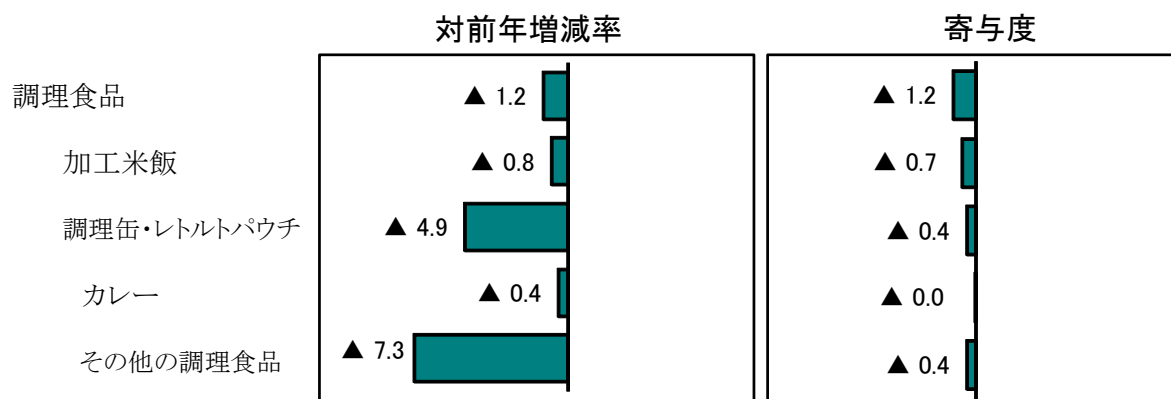


表 2-13 調理食品の品目別生産指数の推移

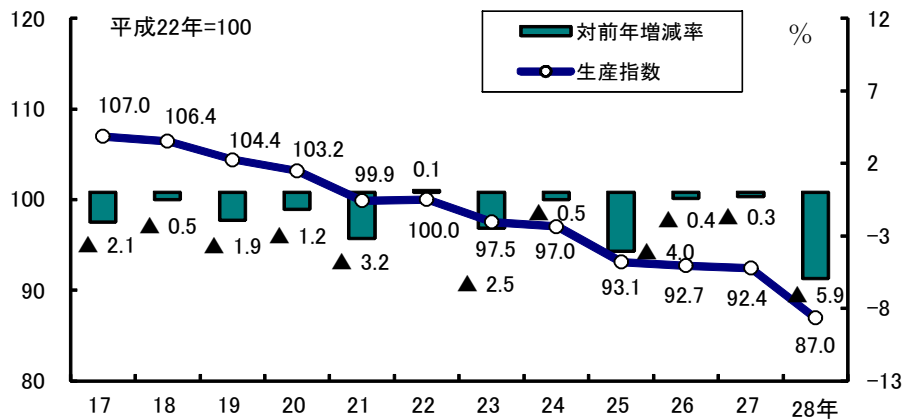
品目	年次 ウエイト (22年)	生産指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 28/27年
		22年	26年	27年	28年	22年	26年	27年	28年	
調理食品	984.0	100.0	142.3	145.4	143.8	1.3	4.6	2.2	▲ 1.2	▲ 1.2
加工米飯	848.4	100.0	149.4	153.3	152.1	1.0	5.1	2.6	▲ 0.8	▲ 0.7
調理缶・レトルトパウチ	135.7	100.0	98.0	96.3	91.6	3.1	▲ 0.1	▲ 1.8	▲ 4.9	▲ 0.4
カレー	47.6	100.0	110.9	96.5	96.1	23.5	▲ 6.0	▲ 13.0	▲ 0.4	▲ 0.0
その他の調理食品	88.1	100.0	91.0	96.2	89.1	▲ 5.4	4.2	5.7	▲ 7.3	▲ 0.4

1.1 酒類

平成28年の酒類の生産指数（平成22年=100、一部推定を含む暫定値）は87.0で、対前年比▲5.9%とやや低下した。特に清酒、ビール及び雑酒の低下が全体を押し下げている。

品目別にみると、スピリッツが対前年比でかなり大きく上昇した。また、ウイスキーがやや上昇した。一方、清酒、合成清酒、果実酒及び雑酒は対前年比でかなりの程度低下し、焼酎、みりん、ビール及びブランデーはやや低下した。また、リキュールは前年並みとなっている。

図2-27 酒類の生産指数の推移



ビールはやや低下、雑酒はかなりの程度低下

ビールの生産量は237万1千klで、生産指数は対前年比▲5.5%とやや低下した。ウイスキーなど他のカテゴリーへの消費の移行や消費者の低価格志向から、ノンアルコールのビール風味商品など低価格商品に押され、平成28年は前年を下回った。

雑酒の生産量も110万klで、生産指数は対前年比▲8.2%とかなりの程度低下した。その要因として、特に若者の酒類離れが大きく響いているものとみられる。

焼酎はやや低下、ウイスキーはやや上昇

焼酎の生産量は72万6千klで、生産指数は対前年比▲5.1%とやや低下した。一方、ウイスキーの生産量は11万2千klで、生産指数は対前年比4.7%とやや上昇した。

スピリッツはかなり大きく上昇、リキュールは前年並み

スピリッツの生産量は49万2千klで、生産指数は対前年比13.9%とかなり大きく上昇した。一方、リキュールの生産量は177万7千klで、生産指数は対前年比0.7%と前年並みとなった。

図2-28 酒類の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

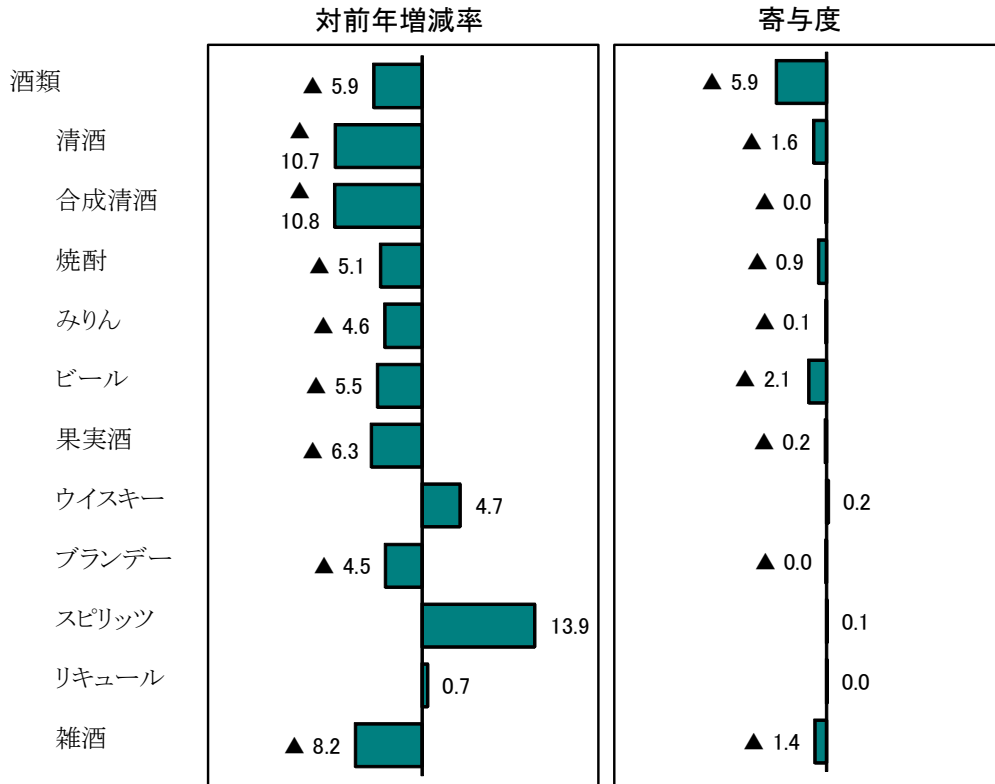


表 2-14 酒類の品目別生産指数の推移

品目	年次 ウェイト (22年)	生産指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 28/27年
		22年	26年	27年	28年	22年	26年	27年	28年	
酒類	2,029.9	100.0	92.7	92.4	87.0	0.1	▲ 0.4	▲ 0.3	▲ 5.9	▲ 5.9
清酒	290.7	100.0	95.5	93.6	83.6	▲ 1.7	▲ 2.4	▲ 2.0	▲ 10.7	▲ 1.6
合成清酒	6.0	100.0	80.3	76.5	68.2	2.4	▲ 3.1	▲ 4.7	▲ 10.8	▲ 0.0
焼酎	374.7	100.0	94.3	91.7	87.0	4.3	▲ 1.3	▲ 2.8	▲ 5.1	▲ 0.9
みりん	26.5	100.0	97.5	101.0	96.4	▲ 0.5	1.4	3.6	▲ 4.6	▲ 0.1
ビール	773.7	100.0	93.3	93.5	88.4	0.8	▲ 0.9	0.3	▲ 5.5	▲ 2.1
果実酒	35.9	100.0	131.1	132.7	124.4	1.4	7.5	1.2	▲ 6.3	▲ 0.2
ウイスキー	61.1	100.0	122.8	143.9	150.6	10.4	13.8	17.2	4.7	0.2
ブランデー	0.1	100.0	91.6	88.0	84.0	22.4	0.4	▲ 4.0	▲ 4.5	▲ 0.0
スピリッツ	6.4	100.0	146.6	164.4	187.2	8.5	20.0	12.1	13.9	0.1
リキュール	39.1	100.0	109.2	110.7	111.5	1.3	▲ 3.3	1.4	0.7	0.0
雑酒	415.6	100.0	78.0	76.0	69.8	▲ 25.1	▲ 0.8	▲ 2.5	▲ 8.2	▲ 1.4